



二上山

朱鳥元(686)年9月、病の床にあつた天武天皇が崩御し、皇后の鸕野讃良皇女(のちの持統天皇)が即位をしないまま、政務を引き継ぎました。皇后は、皇居の南庭に殯宮を建て、天皇の葬礼をはじめました。その殯の最中に、天武天皇の第三皇子である大津皇子が謀反を企んでいると疑われ、皇后の命により死罪となりました。それを知った大津皇子の妃である山辺皇女は、髪を振り乱し裸足のまま皇子のもとに駆けつけ、後を追って殉死しました。

大津皇子は、立ち居振る舞いが美しく分別があり、頭脳明晰であつたので、多くの人に慕われていたといえます。和歌や漢詩などの詩作に優れ、詩賦(中国の韻を踏んだ詩文)の興隆は大津皇子に始まるとされています。『懐風藻』(日本最古の漢詩集)に詩を残すほか、『万葉集』にも歌を残しています。

大津皇子の同母姉で、伊勢神宮の斎宮であつた大来皇女も皇子の罪により任を解かれていきます。2人の母親は、持統天皇の同母姉の大田皇女でした。『万葉

おおつのみこ
大津皇子事件

集』には、大津皇子が二上山に葬られたときに、大来皇女が皇子を思つて詠んだ歌も残されています。

大坂山口神社(逢坂・穴虫)

大坂山口神社は香芝市にある神社で、約600mの距離を隔てて、「逢坂」と「穴虫」の2つの社が存在しています。壬申の乱の際、大海人皇子(のちの天武天皇)の臣下である大伴吹負は、河内から侵攻する大友軍に備えて、数百人の軍兵を率いた佐味君宿那麻呂を大坂の地に駐屯させました。



逢坂



穴虫

「古事記かるた」「日本書紀すごろく」発売中!
 『古事記』の名場面を親しみやすいイラストで紹介している「古事記かるた」と、『日本書紀』の有名な8テーマをもとに作成した「日本書紀すごろく」を発売中です! 商品の詳細や購入方法はHPでご案内。家族や友達と遊びながら『古事記』『日本書紀』の世界に触れてみませんか。



P26
 あります
 プレゼントが



(かるた)



(すごろく)